

(前面からの続き)

が、古くからの郷土芸能は、いわゆる口承文化として伝えられてきたわけですから、楽譜も無く、動作も見て覚える、歌詞も順不同なので、教える方も習う方もいろいろ苦労はありました。

が、この貴重な財産を後世まで伝えたいというみんなの熱意が、これまで続けてこられた原動力になっています。

コロナ禍の中、いろいろ工夫しながらこれからも頑張って活動を続けたいと思います。



<11~3月のイベント情報> (協会主催・後援、加盟団体主催・出演等)

詳細は協会ホームページおよび「Fax メール通信」をご参照ください。

<11月> 28日(土) あびの実・子ども招待映画会「ソング・オブ・ザ・シー」上映

14:00からと19:00からの2回上映 おじゃれホール

<2月> 第80回島民大学講座「生誕250年ベートーベン その生涯と作品」

- ・20日(土) 19:30~21:00
- ・21日(日) 14:00~15:30
- ・「おじゃれホール」にて
- ・講師 湯川晃、湯川涼子 氏

<実記の会・歴史セミナー> 全て、13:30~、商工会研修室にて…()内は発表者

- ・1月16日(土) 源為朝伝説をおって (茂手木 清)
- ・1月23日(土) 和歌山サンマ船漂着について (林 薫)
八丈島の資料でみる司法制度の変遷 (大川 和彦)
- ・2月 6日(土) 八丈八景と俳句・短歌 (伊藤 宏)
- ・2月13日(土) 陸上競技記録会の歴史 (佐々木 究)
- ・3月13日(土) フィールドワーク (八丈島の為朝伝説を訪ねて)



八丈島文化フェスティバル開催見送りのお知らせ

1月に予定しておりました八丈島文化フェスティバルは開催を見送ります。

文フェスへの出演や出展を励みに日々活動してくださっている皆さま、そして毎年楽しみにご来場いただいている皆さまには申し訳ありませんが、残念ながら今年度は、多くの方が安心して参加、来場できる状況ではありません。そのため、まず舞台部門について参加団体の出演の意向を調査させていただき、その結果を踏まえて、中止を決定致しました。作品展部門については、単独開催はフェスの性質上考えにくく、併せて中止とさせていただきます。

来年度には状況が好転し、島内の文化活動が再び活性化し、第32回フェスを皆様とともに開催できることを願っております。

(八丈島文化フェスティバル事務局・山下久美子)

〇伝統芸能文化継承事業の発表会も中止になりました。

伝統芸能文化継承事業の発表会(芸能文化祭)も、コロナ禍のため中止になりました。

八丈島文化協会 会報 第34号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2020年11月6日 発行

第98回あびの実・子ども招待映画会 「ソング・オブ・ザ・シー 海のうた」上映

11月28日(土)14時、19時~ 八丈町多目的ホール「おじゃれ」

文化協会がNPO あびの実と共催で毎年実施している「子ども無料招待公演」。今年は新型コロナウイルス感染防止を徹底した上で、世界で数々の賞を受賞したアニメーション映画「海の歌」を上映します。

〇11月28日(土) 14時/19時

(上映時間93分。吹き替え版 2回上映)

※両回とも30分前に開場

〇八丈町多目的ホール「おじゃれ」

※招待券・一日会員券をお持ちの方のみ入場できます。当日は新型コロナウイルス感染予防にご協力ください。

※招待券・一日会員券を希望される方は、お問い合わせ下さい。【問い合わせ先】

090-5817-3266 abinomi8jo@yahoo.co.jp

映画の公式ホームページはこちら。QRコードを読み取ってください！予告動画も視聴できます！



第98回あびの実 子ども招待公演 『映画会』

SONG of the SEA

ソング・オブ・ザ・シー 海のうた

母が死んだ「うた」を聴いて、幼い二人の大冒険が始まる！

忘れないで
母さんは
あなたのことが大好き
ずっと

2020年11月28日(土)
八丈町多目的ホール「おじゃれ」

14時/19時(吹き替え版2回上映・93分)
※両回とも30分前開場

今回お届けするのは、世界のアニメーション界を牽引した
アイルランドのアニメーション映画「ソング・オブ・ザ・シー 海のうた」。
アイルランドの神話をベースに、幼い兄妹の大冒険を、まるで絵本が
動き出したかのような美しい映像で描き出す珠玉のファンタジー！

子ども・あびの実会員 無料
※一般および未就学児付き添いの大人は一日会員券が必要です。
詳細はチラシをご参照ください。
お問い合わせ 090-5817-3266 abinomi8jo@yahoo.co.jp

毎年恒例のあびの実子ども無料招待公演。今回は新型コロナウイルス感染防止を徹底した上で、文部科学省特別選定のアニメーション映画を上映します。
※新型コロナウイルス感染防止のため、1回の座席を割別し(14席)、当日はマスク着用、入場時の手洗消毒、各自での検温と健康状態確認など、新型コロナウイルス感染予防にご協力下さい。

主催 特定非営利活動法人八丈島あそびと文化のNPOあびの実 共催 八丈島文化協会

第79回八丈島民大学講座 ー東京都立大学提携ー

気候変動とカミュ『ペスト』をテーマに開講

よりよい明日をとともに築いて行くために、だれもが気軽に参加できる生涯学習の場として40年目を迎える八丈島民大学講座が、9月4日(金)と5日(土)いずれも午後7時30分から9時まで、八丈町商工会研修室で開かれました。



1日目は、松本淳教授(環境地理学)による「気候変動と私たちの暮らし」。わずかな変化が積もり積もって北極の氷を溶かしたり、猛暑、超大型台風など人間生活に大きな影響をもたらすことが、豊富なデータで示され、温暖化、海面上昇などが、人間の生活にどのような変化を迫るのか、関心を持って見ていかなければならないと考えさせられる講座となりました。



松本教授「気候変動」の講義



西山教授「カミュのペストを読む」

2日目は、西山雄二教授(現代フランス思想)とフランス文学の傑作カミュの『ペスト』に描かれた「感染症に抵抗する人間」像を読み解くという内容で、作家の思想的背景・小説の構造・内容を、新型コロナウイルス感染症が流行する現実に重ねて具体的にテンポよくお話していただきました。不条理な現実を“あるがまま”に受けとめて最善を尽くす生

き方を、それぞれの立場で実践することが大事だと教えられた講座でした。

会場での受講者は2日間で延べ86人。都立大のご尽力で行ったZoomを使ったオンライン講座は、伊豆・小笠原諸島、北海道、大阪府など、40人が受講しました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、健康チェック、マスク着用、手指の消毒などを行いました。

建立、絵はがき発行、記念誌の出版、講演会、劇「島を愛した男」の上演、ワークショップ(シウデ作り・ハンゴ餅つき)、歴史民俗資料館での特別展示などを行いました。詳しい経過は、『島を愛した男 近藤富蔵 ーある流人の生涯ー』(1994年3月、八丈町教育委員会刊)をご覧ください。富蔵忌として6月1日早朝の墓参もこの頃から続いています。

『八丈実記』を読む会が主催する「八丈島歴史セミナー」は、今年14回目を行いました。会員が、自身関心の強い八丈史のテーマを深掘りして発表する行事は、発表者には集中的な研究の機会となり、聞き手には「そうだったのか!」という発見の場になっています。1シーズン5回のうち1回は島内各地の旧跡・旧道を歩く「野外講座」で、今では歩く人のいなくなった山道を、藪をかき分けながら進む厳しさがありますが、人気があります。

次のセミナーは、来年1月16日(土)から3月13日(土)まで、5回で行う予定です。

『八丈実記』の正確性について問題にする向きがありますが、我々として『実記』を絶対視しているわけではありません。この島で人々はどのように生きてきたのか、富蔵が書かずいられた心情を思い、新しい発見に関心を持ちつつ、これからも『実記』とともに歴史を追いかけて行きたいとの思いで、現在10人の会員が、第4巻「配流」の編を粘り強く読み進めています。 2020.10.21 (い)

町表彰を受けて

加茂川会代表 川瀬喜重子

八丈町の郷土芸能の担い手がだんだんと少なくなってゆくなかで、加茂川会が町の文化功労団体として受表彰したことは、会員の努力もありますが、それを支えて下さった島内外の関係する皆様のおかげです。心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

以前文化協会でご紹介させていただきましたので、設立や経過については割愛させていただきます(裏面に続く)



八丈町文化功労表彰 加茂川会と八丈実記を読む会に

町の表彰制度は、従来個人表彰しかなかったのですが、今年度から団体表彰制度が導入され、文化協会として『八丈実記』を読む会と加茂川会を推薦し、町の表彰委員会から承認されました。例年は表彰式が行われることになっていましたが、コロナ禍のため式もその後の祝う会も実施されませんでした。9月26日(土)に個人や団体に賞状と記念品が授与されました。

『八丈実記』を読む会41年のあゆみ

2002年(平成14)3月初め、『八丈実記』の著者近藤富蔵の血縁にあたる青木淑子さんの水墨画展が、当時の勤労福祉会館(現・コミュニティーセンター)で開かれました。『八丈実記』を読む会に会場を提供し、会をリードして下さった金城雅子さんが、その時の挨拶の中で「実記を読む会も結成から23年。粘り強さの点では富蔵に負けていない」と語っています。当時から23年をさかのぼると、実記を読む会が始まったのは1979年(昭和54)。41年前ということになります。雅子さんの話では、『八丈実記』を読もうという集まりに参加したが、「いつ」というところで折り合いがつかず、とりあえず水曜日に集まれる人は金城宅へということでスタートしたのが、現在の会の始まりだそうです。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という『方丈記』冒頭を引用するまでもなく、41年の間には多くの人の異動がありました。既に故人となられた金城雅子さん、葛西重雄さん、転勤などで島を離れた方々など……。人の行き来はありましたが、会として40年以上続いたことは、当事者としても驚きです。

『実記』本文を一字ずつたどりながら読み進める、気の長い作業のくり返しでしたが、新しい知識は乾いた砂に水が染みこむように入っていました。やがて知り得た情報をまとめて発表する機会が訪れました。「南海タイムス」が「実記こぼれ話」というコラムを任せてくれ、7人の会員が交替で執筆し、1985年1月から翌年11月まで44回続きました。

1988年(昭和63)は富蔵没後百年にあたりました。富蔵の業績を顕彰する記念行事をしようと、墓前祭、顕彰碑の

